

平成 27 年度

事業報告説明書

公益財団法人 大阪認知症研究会

事業報告説明書

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日

1. 助成事業

○事業内容・趣旨：

◇医学研究助成・・・団体及び個人が実施している研究に対して積極的に助成することにより、研究の着実な成果を見だし、認知症の問題・課題の解決を図る。

◇海外派遣助成・・・海外の認知症研究者との研究交流をはかることによって、当該分野における研究レベルの向上を企図する。

○応募期間：

平成 27 年 4 月 15 日～同年 5 月 16 日（消印有効）

○応募資格：

認知症の研究にあっている大阪府域の大学、研究所、医療機関、保健施設等に属している者。但し、弊財団で前年度に助成を受けられた方は応募不可。

○助成対象研究：

- (a) 認知症疾患の臨床的研究
- (b) 認知症疾患の発症危険因子に関する研究
- (c) 認知症疾患の病因に関する研究
- (d) 認知症疾患の病態に関する研究
- (e) 認知症疾患の方の介護、看護技術に関する研究
- (f) 認知症疾患の方の地域ケア、処遇に関する研究

○助成金予算：

◇医学研究助成・・・400 万円 ※件数は特に定めず

◇海外派遣助成・・・40 万円（2 件）

○応募・選考件数（金額）：※詳細は別紙に記載

平成 27 年 6 月 3 日、選考委員による選考の結果、助成対象 9 件を決定、同日理事会で承認。

	医学研究	海外派遣	合 計
予 算	400 万円	40 万円	440 万円
応募件数	12 件	2 件	14 件
選考件数（金額）	7 件（410 万円）	2 件（30 万円）	9 件（440 万円）

○助成金贈呈：

平成 27 年 7 月 28 日、助成金贈呈式を実施（於 千里阪急ホテル）

2. 普及啓発事業

認知症講演会開催

○開催日時：

平成 28 年 1 月 31 日（日）午後 2 時～4 時 30 分

○実施場所：

千里ライフサイエンスセンター5 階ライフホール

○対象者並びに参加費：

一般府民、参加費無料

○講演内容：

座 長・・・三木 隆己 氏（大阪市立大学 名誉教授）

講演 1・・・「今日からできる認知症予防」

国立循環器病研究センター 脳神経内科 医長 猪原 匡史 氏

講演 2・・・「認知症と車の運転」

大阪市立弘済院附属病院 精神神経科 部長 河原田 洋次郎 氏

○当日参加人数：

322 名（申込受付 447 名 ⇒ 参加率 72%）

○本事業への寄付金：

製薬会社 5 社 合計 480,000 円

（イーライリリー、ヤンセンファーマ、小野薬品、エーザイ、アステラス製薬）

以上

事業報告書の附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

○医学研究助成の部

助成対象者氏名	年齢	所属機関	助成金額 (万円)	研究課題
山本 圭一	39	大阪市立大学 医学部神経内科学教室	100	銅イオン親和性アルブミンを測定することでの、軽度認知障害及びアルツハイマー型認知症を診断する方法の開発
永田 優馬	25	大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究科臨床支援系領域	30	重度認知症者のための QOL 尺度－Quality of Life in Late Stage Demenntia (Weiner, et al., 2000) 日本語版の作成、ならびに新しい重度認知症者用 QOL 尺度の開発
工藤 喬	56	大阪大学保健センター 精神科	100	分泌型 ER ストレス分子 calnuc を基盤としたアミロイドβ蛋白重合阻害法 の開発
松田 泰範	36	大阪市立大学大学院 医学研究科神経精神医学	10	抑うつ症状を有する非認知症高齢者の線条体ドパミントランスポーター イメージングを用いた縦断的研究
外池 光雄	71	藍野大学 医療保健学部臨床工学科	100	初期アルツハイマー病患者において嗅覚刺激により誘発される脳内パ ラメーターのマルチモーダル計測
田川 亮	33	大阪市立大学大学院 医学研究科神経精神医学	30	レビー小体型認知症およびその前駆状態患者における背側脳幹の萎 縮についての検討
山川 みやえ	37	大阪大学大学院 医学系研究科統合保健看護科学分野	40	認知症治療病棟における非常に攻撃性の高い患者への薬物治療を含 めたケア技術の開発: CVPPP の認知症への応用
			410	

○海外派遣助成の部

氏名	年齢	所属機関	申請金額 (万円)	研究課題
松田 泰範	36	大阪市立大学大学院 医学研究科神経精神医学	10	The World Psychiatric Association International Congress 2015

